

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

法華経寺 祖師堂

久方ぶりに訪ねた法華経寺は、日蓮宗五大本山のひとつ、創立七百余年を誇る関東屈指の名刹。京成中山駅より歩いて5分、黒門と赤門をくぐり、ゆるやかな上り坂の参道の先に五重塔が見えると、やがて2万坪の敷地に広がる懐かしい境内の風景を前にする。

めざす祖師堂は光悦の筆による表額を掲げてその左手に建つ。宗祖日蓮上人と六人の祖師を祀るこのお堂は、法華経寺のシンボルであると同時に県下最大の木造建築である。

江戸中期1678年に再建した現在の建物は、幾度かの修理と改築を重ねて今日に至り、昭和60年には重要文化財の指定を受けた。この度完成した解体修復は、10年を要した大工事で、全国でも珍しい比翼入母屋造り柿葺きによる建立時の原形を復元して、学術的にも高い評価を受けた。

夕陽を受けて雄大な綫線を浮かべる大屋根の面積は約480坪、境内を走りまわって遊ぶ子供たちの視野に、こののびやかな空気が育む原風景こそ未来への遺産だ。

所在地：市川市中山2-10-1

施主：(宗)法華経寺

設計：(財)文化財建造物保存技術協会

施工：清水建設(株)

かつて松林に囲まれていたであろうこの地も、今では密集した住宅が隣接して、残念ながら遠景を妨げた。しかし解放された法華経寺の存在は、市民の憩いの空間である意義も大きく、大衆仏道を唱えた日蓮の遺志が、時を超え宗旨を超えて祖師堂復元を果たしたと言えよう。

(野口瑠璃)



撮影：松本十徳

所在地：千葉市中央区轟5-1-9 シーアイマンション西千葉512号

施主：松木 陽子

設計：壱岐坂アーキテクト 古暮 和歌子

施工：(株)スタジオエース

高齢者・障害者等に配慮した建築物

松木邸

松木邸は、共働きの若い夫婦とまだ幼い二人の子供が安全かつ快適に居住するために、築20年のマンションを改築したものである。この家の主婦は、幼少期にこのマンションに住まい、その後転居したが、再びこのマンションに戻ってきた。その際に、自身の両親も同じマンションの別の住戸に転居しスーパの冷めない近居を実現している。

改築にあたっては、あらゆる世代が住めることが目指された。ここでは、まず若い孫たちが住み、その後には、祖父母が住み替わってくるのが想定されている。したがって、設計上の配慮は、基本的な段差の解消、浴室・便所のスペースの確保などの点には十分留意しつつも、狭さを感じさせないオープンなプランニング、将来の可能性、明るい色彩計画などに力点がおかれている。また、100㎡という広さがこうした改築を可能にしている。

いわゆる高齢者、障害者対応という堅いバリアフリーの考え方ではなく、老若どのような世代も住めるようにという、今、話題のユニバーサルデザインへと設計概念が拡張されている。若干、未消化な点がないではないが、若い建築家の意欲的な取り組みに今後も期待したい。

(園田 真理子)



撮影：壱岐坂アーキテクト